

## 世界銀行での業務

氏 名： 畑山 真穂

修学機関： メリーランド大学公共政策大学院 博士課程（公共政策）

University of Maryland, School of Public Policy, Doctor of Philosophy (PhD)

研究テーマ： 貧困層へ雇用機会を創出する産業政策の検討

Industrial policy for job creation and poverty reduction

略 歴 （はたやま まほ）

世界銀行にてエコノミストとして勤務。2014 年 London School of Economics (LSE)にて修士号取得。卒業後、開発コンサルタント企業にて、モザンビーク農業開発や能力強化に係る日本 ODA 事業に従事。2017-2018 年には国連開発計画（UNDP）リベリア国事務所にて中小零細企業支援プロジェクトに従事。その後、イギリス研究機関 Institute of Development Studies にて研究員としての勤務を経て、2019 年より世界銀行にて勤務。勤務を継続しながら、メリーランド大学大学院で博士課程を開始。

## 世界銀行での仕事の内容

昨年 2022 年 9 月に博士課程に入学して、2 年目を終わりました。この 2 年間は、博士課程と並行して、フルタイムで世界銀行にて勤務を継続しています。今回は、現在の仕事の内容について記載したいと思います。大学の授業がある期間は、部署のマネージャーと一緒に働く同僚の承諾を得て、大学には授業を受けるため約週 2 日ほど通い、大学からリモートで働き、その他の日には、世界銀行のオフィスから働くという生活をしています。

博士課程が始まってから、過去 2 年間は、複数の研究プロジェクト、報告書や研究出版物の作成・執筆に携わりました。例えば、現在大きく携わっているのは、世界銀行の主要なレポートである国別経済メモランダム（Country Economic Memorandum）に関するタスクです。国別経済メモランダムは、その国の経済発展、見通し、政策課題についての包括的な分析をまとめた報告書です。世界銀行とその国の政府、その他のステークホルダーとの対話の基礎となり、政策決定の指針や成長や雇用づくり（Growth & Jobs）を促進する提言にも役立ちます。私は特に、労働市場、雇用・仕事（Jobs）に関するデータ分析やチャプターの執筆に携わっています。例えば、過去には、シエラレオネやセネガルの労働市場・雇用について、労働力調査や企

業を対象としたセンサスや調査からのマイクロデータを使用し、分析や結果の執筆に携わりました。これらの研究結果は、政策の改善が必要な分野を特定するのに役立ち、直接政府への政策提言に使用されます。

こうした世界銀行の主要な報告書に関するタスクに加えて、様々なトピックの研究出版物の作成にも携わってきました。例えば、COVID-19 の流行した際には COVID が労働市場に及ぼす影響を分析したり、若年者雇用に特化したトピックに関するリサーチペーパーを作成することなどがあげられます。最近では、プラットフォームワーカー（Platform workers）の雇用規制と労働市場に関するレポートを最終化しました。デジタル社会の進展に伴いデジタルプラットフォームを仲介して働く労働者が増え、新しい働き方や雇用形態が増える中で、政府としてどのように労働規制を改定していくかを議論しています。

### 博士課程と本業との関連性

上記に記した国別経済メモランダムの中では、いかに質の良い雇用機会を生み出し、またそれを促す経済成長をどのように政府がサポートするか、地域の産業・企業の成長をどう促すかといった政策の提言をする必要があります。このため、私の博士論文の研究テーマと大きく関連しています。自身の研究を通じて、また博士課程のコースワークで学んだ知識や分析スキルは現在の業務に非常に役立っています。

他方で、これまでの実務で得た経験が、博士課程での研究テーマの構築、執筆やデータ分析をする上で役立つことがあります。また、日々、同僚であるエコノミストからたくさんの学びがあります。勤務を続けることで、研究結果を実際の政策につなげるための政策提言をする、そうした議論に関与する貴重な機会が得られると考えています。



同じ部署の同僚と

## 最後に

FASID様には、2年目も引き続き支援していただき、大変感謝しております。勤務をしながらの学業にはチャレンジも多いですが、FASID様からご支援を頂いているということが、これまで大きな励みになってきました。頂いた機会を生かして、良い研究を生み出し、長期的に開発に貢献していきます。引き続きよろしく願いいたします。